

平成27年度 学校評価自己評価及び学校関係者評価（外部評価）表

東広島市立高美が丘中学校

教育目標		知・徳・体の調和がとれ、思いやりと行動力のある生徒の育成				評価 4・・・目標を上回って達成 3・・・ほぼ目標どおりに達成 2・・・目標をやや下回る 1・・・目標をかなり下回る		
経営理念		〈ミッション・ビジョン〉 『学んでよかった、学ばせてよかった』と生徒・保護者から期待され、信頼される学校づくりの再構築を行い、グローバル化する社会を生き抜いていく生徒の育成を図る。						
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	評価		短期経営目標の達成状況
						7月	12月	
学習指導	2	○確かな学力のさらなる向上 (生きる力の基盤となる知識の習得)	家庭学習の充実	・授業と家庭学習の連動	・家庭学習時間1時間以上80%以上	2	2	・1年生は72.0%(7月)から80.3%(12月)と増加し、目標値を上回る。2年生は57.4%(7月)から42.4%(12月)と目標数値以下で減少する。3年生は62.0%(7月)から81.4%(12月)と増加し目標数値を上回る。入学時からの取り組みで家庭学習への意識付けができていくものの、その後の継続に課題があり、中だるみの傾向が見られる。進路選択の時期となると、時間確保を意識し増加する傾向がある。
			授業づくりの再構築	・校内での全体授業研究3回	・生徒授業肯定的評価80%以上	3	3	・1年生は94.7%(7月)から96.4%(12月)と目標値を大きく上回る。2年生も98.5%(7月)から90.9%(12月)と目標値を大きく上回るが減少傾向。3年生は62.0%(7月)から71.8%(12月)と目標値は下回るものの増加傾向にある。おおむね授業満足度は高く目標達成できている。3年生は昨年度の数値と比較するとかなり数値が増加しており、授業改善の取り組みの成果が出てきていると考えられる。
				・校内での教科別ブロック研修	・県(基礎基本)定着状況調査全教科通過率県平均10ポイント以上(市平均5ポイント以上)	—	2	・国語(82.0%),数学(79.1%),理科(65.1%),英語(79.5%)という結果で、県平均に対する目標値は理科と英語で上回った。市平均に対する目標値は理科のみ上回った。理科については良好な結果といえるがその他の教科については今後、小学校との連携を図る中で各学年の経年変化を見ることが課題を焦点化し、教科別ブロック研修等で取り組みの方向性を確認していく必要がある。
生徒指導	1	○社会に通用する生徒の育成 (思いやりのある生徒の育成)	学校行事の充実	・身につけさせたい力の明確化	・生徒意識調査80%以上	4	4	・1年生は93.3%(7月)から92.9%(12月)。2年生は91.2%(7月)から97.0%(12月)。3年生は85.9%(7月)から88.7%(12月)と、全ての学年において目標値を大きく上回っており、学校行事に対する取り組みの成果が出ている。昨年度と比較すると非常に高い値となっており、生徒会執行部などの生徒を中心として生徒自らが意欲的に取り組めるような行事をつくることができたと考えられる。
			生活三訓の徹底	・学校生活での徹底	・生活三訓にかかわる生徒意識調査80%以上	4	4	・1年生は94.6%(7月)から95.2%(12月)。2年生は94.0%(7月)から88.3%(12月)。3年生は90.6%(7月)から94.8%(12月)と、全学年大きく目標値を達成し、そのうえ2年生を除いては増加している。昨年度との比較でも全体として増加しており、「あいさつ運動」などの生活三訓に対する取り組みの成果が生徒の意識化と行動化に表れてきていると考えられる。
			校内環境美化の整備	・心を育てる緑化活動の推進	・生徒意識調査80%以上	2	2	・1年生は72.0%(7月)から71.4%(12月)。2年生は73.5%(7月)から62.1%(12月)。3年生は66.2%(7月)から62.0%(12月)と、全ての学年で目標値を下回り減少傾向となっている。学校緑化活動がスタートして3年目となり取り組みの定着が図られたものの、目新しさを感じなくなっており、積極的に活動に取り組めるしくみや生徒が主体的に参加できる状況をつくるのが今後の課題として考えられる。
信頼される学校	3	○開かれた学校づくりの推進 (自尊感情と行動力の育成)	委員会活動・部活動の充実	・自主的な活動の推進	・生徒意識調査80%以上	4	4	・1年生は96.7%(7月)から93.7%(12月)。2年生91.1%(7月)から88.6%(12月)。3年生は90.8%(7月)から93.4%(12月)と、全学年にわたり大きく目標値を上回っているため、取り組みの成果はあると考えられる。しかしながら、3年生をのぞいて来年度主力となる1・2年生が若干ではあるが減少傾向にあることが懸念され、今後さらに委員会活動や部活動を活性化していくことが求められる。
			小中一貫教育の積極的な推進	・小中学校教員の積極的な情報交換	・小中連携合同研修会の年間2回以上実施	—	3	・第1回/8月18日(木)、生徒指導・授業力向上の取り組みの発表を行い、指導講話を聴く。 ・第2回/1月28日(木)、生徒指導・学力向上の実践報告と「かわり合い」をキーワードに協議を行う。
				・授業交流の実施	・授業交流3回以上実施	—	4	・校内全体研修や校内ブロック研修において相互に授業交流を実施する。(中学校→小学校:8回 小学校→中学校:7回)
地域連携事業の実施	・保護者、地域への情報発信 ・地域行事への参加及び連携事業の実施	・保護者満足度調査80%以上	3	2	・1年生は80.9%(7月)から77.6%(12月)。2年生は80.7%(7月)から78.0%(12月)。3年生は78.4%(7月)から79.3%(12月)と、1・2年生については前期に目標値を達成したものの後期には下回り、3年生は後期に増加したものの目標値に若干達していない。数値から情報発信については理解が得られているものの、地域行事への参加について課題があるので、来年度に向けて取り組みが必要である。			

改善の方向性

〈学習指導〉	○積極的な指導主事招聘による授業研究(道徳教育を基軸とした学習スタイルの確立)の実施 ○各種検定への受検 ○補充学習の充実	学校関係者評価(外部評価) (学習指導に関して) ・学習評価や進路指導について適正に実施されているので、評価規準や推薦基準の保護者への周知についても引き続きお願いしたい。 ・学力に課題のある生徒への手立ての充実を図る必要がある。 (生徒指導に関して) ・地域でも中学生があいさつをするようになってきたが、大人が地域であいさつをしないと子どもたちもあいさつをしないので、地域ぐるみで取り組んでいく必要がある。 ・卒業式は落ち着いて感動的なものになっていた。 (信頼される学校について) ・地域やPTA組織が学校を支える体制を構築することが大切である。 ・保護者へのアンケートで満足度が下がっていることに対して、どこに不満があるのかを調査してみる必要がある。
	○生活三訓の全教室での掲示、HR及び生徒委員会等での徹底 ○不登校生徒の状況把握、情報共有、保護者連携及び関係機関等との連携・充実 ○生徒へ寄り添い、かわりきる指導の徹底 ○生徒指導の三機能を活かした授業スタイルの確立	
	○学校だよりの配布及びHPの更新 ○積極的に地域行事への参加 ○小学校と連携した挨拶運動、授業交流など積極的な交流活動の実施	